

立教大学公開講演会

変動する大学入試

ードイツ、フランスの事例から考えるー

2021年に向けて進む入試改革においては、「思考力、判断力、表現力」をいかに評価するかが問題となっている。しかし、「思考力、判断力、表現力」を評価することはいかなる方法によって可能なのだろうか。その前提として、大学での学修にはどのような能力が必要なのだろうか。本講演会ではこのような問題に、ドイツとフランスという日本とは異なる「入試」制度をとる国々の事例を参考にしながら考えてみたい。

事前予約不要

参加費なし

日時 2018年9月22日(土) 13:00-15:30

場所 立教大学池袋キャンパス
マキムホール201教室

アクセス: 池袋駅西口より大学正門まで徒歩約7分



プログラム

12:40- 受付

13:00 開会のあいさつ 伊藤実歩子(立教大学)

13:15-14:15 ドイツの事例 Prof. Dr. Lothar Wigger(ドルトムント工科大学)

14:15-14:45 フランスの事例 坂本尚志(京都薬科大学)

14:45-15:00 コメント(日本との比較) 木村裕(滋賀県立大学)

15:00-15:30 質疑応答

15:30 閉会

(通訳 Sarah Stark)

主催 立教大学文学部教育学科

問い合わせ先 立教大学文学部教育学科 伊藤実歩子研究室

メールアドレス m-ito@rikkyo.ac.jp